

1. 件名：原子力エネルギー協議会との面談
2. 日時：令和5年7月20日（木）16：00～18：00
3. 場所：原子力規制庁9階会議室
4. 出席者：

原子力規制庁 長官官房 技術基盤グループ 技術基盤課 システム安全研究部門	佐々木企画調整官、今瀬原子力専門職、酒井原子力 規制専門職、皆川原子力専門職、山田原子力規制専 門職 小嶋統括技術研究調査官、橋倉上席技術研究調査 官、田口主任技術研究調査官
原子力規制部 原子力規制企画課 実用炉監視部門 検査監督総括課	黒川課長、藤森企画調査官、斎藤課長補佐、望月専 門職、佐藤係長、田代係長、金坂係員 菊川管理官補佐、井上係長 村上課長補佐

原子力エネルギー協議会	理事 他11名
東北電力株式会社	原子力部（原子力設備） 副長
東京電力ホールディングス株式会社	設備技術グループ マネージャー 他1名
関西電力株式会社	保全計画グループ マネージャー 他2名
中国電力株式会社	原子力電気設計グループ マネージャー 他3名
九州電力株式会社	原子力発電本部 原子力経年対策グループ 課長 他2名

5. 要旨：

<CNO 意見交換会について>

○今年度開催する主要原子力施設設置者の原子力部門の責任者との意見交換会（以下、「CNO会議」という。）の議題について、原子力エネルギー協議会から資料1のとおり、①リスク情報を活用した保安規定における運転上の制限（LCO）等の改善やオンラインメンテナンスについて、②GX基本方針の次世代革新炉のうち、事業者が最早の導入を見込んでいる革新軽水炉の導入に向けた課題を議題としたい旨の提案があった。原子力規制庁側からは、今年度のCNO会議の開催候補時期として秋に1回、年明けに1回の計2回を考えている旨と、原子力規制庁側から提案する議題とし

て高経年化した発電用原子炉の安全規制に係る設計の古さへの対応を候補にしたい旨を伝えた。

<米国ロビンソン原発2号機の炉心槽の割れ>

○原子力規制庁より、米国 H. B. ロビンソン原子力発電所2号機の炉心槽の割れに関して、ATENAに下記の事項について情報提供を依頼した。

- ・当該事象前後の国内の検査の状況
- ・国内プラントの炉心槽の溶接線図及び溶接方法

○ATENAより、情報を収集し提供する旨、発言があった。

<原子力発電所における電磁両立性（EMC）>

○ ATENA より、電磁両立性（EMC）に係る原子力発電所における対応について、イミュニティ試験への対応及び周辺ノイズ環境測定とエミッション試験への対応について資料1、2により説明を受けた。

○ 原子力規制庁より各試験の機器構成とその目的について、特にPWR向けとBWR向けとの差異の明確化を含めて、今後記載を充実して説明することを要望すると共に、今年度行うノイズ環境試験について、その実施時期・場所を事前に原子力規制庁に連絡することを要望した。

○ ATENA より、対応する旨発言があった。

<デジタル安全保護系の共通要因故障対策>

○ATENAより、デジタル安全保護系の共通要因故障対策の自律的対応について、第8回発電用原子炉施設におけるデジタル安全保護系の共通要因故障対策等に関する検討チーム会合資料として、資料3～6に基づき説明があった。また、同会合までに、記載の明確化、適正化の観点から資料を修正する旨の発言があった。

○原子力規制庁より、会合に向けて資料の準備を進めるよう申し伝えた。

○ATENAより、承知した旨、発言があった。

6. 配布資料：

資料1 電磁両立性（EMC）に係る原子力発電所における対応についてイミュニティ試験への対応（供試体について）

資料2 電磁両立性（EMC）に係る原子力発電所における対応について周辺ノイズ環境測定とエミッション試験への対応（測定について）

資料3 デジタル安全保護回路のソフトウェア共通要因故障対策の自律的対応について川内1号機の対応結果と振り返り

資料4 川内原子力発電所2号機デジタル安全保護回路のソフトウェア共通要因故障対策に係る工事への対応について

資料5 柏崎刈羽原子力発電所7号機デジタル安全保護回路のソフトウェア共通要因故障対策に係る工事への対応について

資料6 参考：LER 情報分析結果（補足説明1/2）

以上